

○強行採決の付けが国民にまわる

後期高齢者医療制度の保険料が年金から天引きされることが始まり、さまざまな矛盾が噴出しています。

75歳以上のお年寄りを対象に、独立した保険制度を作ろうとしたことが発端です。国民健康保険から新医療制度に移行する人々にとって、そのための保険料が結果的には所得の低い人々に以前より多くの負担をかけること。さすがに今は政府が凍結をしていますが、凍結が解除される半年後には、息子さんの政府管掌保険など家族の扶養にある立場から独立した形で移行する人々(200万人)は、この分が新たな負担として課されること。これが年金からの天引きになったことから、毎年増加する介護保険の保険料の天引きと相まって、高齢者、特に低所得層への一方的な負担増という結果になっています。説明も十分になりまわすかな生活費から一方的に天引きされるお年寄りからの怒りの電話が、私のところにも鳴り続いています。

安定した最低補償を確保できる年金とともに、医療の国民皆保険は日本が将来にわたって「安心と命を大切に作る国」であるための根本理念だと思っています。高齢人口が団塊の世代の現場からの卒業とともに大きく膨れ上がることは以前から分かっていたこと。このための医療費の増は、若い人たちの医療保険料を上げることで賄うか、それとも消費税などの増税で賄うかの選択が迫られています。2年前、当時の小泉政権はこのどちらをも言い出すことができずに、なんと、お年寄り自らの負担増でつじつまを合わそうとしました。乱闘騒ぎの強行採決だったのです。その年の、郵政民営化解散、自民党大勝の請求書がここにも回ってきています。

まず、将来予想される増税を最小限に抑えるために税金の無駄遣いを徹底的に改革すること。これがこの国会での私たちの挑戦です。その上で、年金や医療改革の安心できる将来ビジョンの説明と同時に、必要な財源として消費税を増税することに対する国民の理解を身を挺して得ていくときが来ていると思って

います。

○岩国は、日本の矛盾の縮図

4月27日に補欠選挙を控えた平岡秀夫さんの応援に山口県岩国市に入りました。民主党と自民党が激突する選挙区では、ガソリン税や医療、年金問題に、しっかりと手ごたえを感じました。

一方で、新たに艦載機部隊を受け入れる予定の米軍基地を抱えた地元住民の複雑な思いにも接することができました。地元の合意を前提に国からの交付金を当て込んで建設したホテルのようなガラス張り市庁舎には、総じて厳しい住民の目が注がれています。米軍兵士の犯罪が続く状況にも多くの不安がつのっています。一方で、この際、基地の飛行場を民間開放して岩国の起死回生への突破口にするような政策を候補者がうたえて欲しいという声があります。米軍基地の存在をもっと有効に地域の経済活性化への道筋と捉えるべきだという人々です。

しかし、一見意見が違うと見える両者の本当の想いは詰まるところ一つ。地元のある印刷工場の社長さんのこの言葉に凝縮されるのだと思いました。「中川さん、米軍の基地なんか日本にはいらぬ。日本の国の形を政治の力でこんなふうに変えたら、日本の景気回復から取り残されたこの岩国も米軍基地なんか頼らなくても元気が出てくると、私らが納得できることを言ってよ。」私たちは本気でこの言葉に向かい合わなければならないと、肝に銘じました。

○連休は民主党フェスティバル

この連休は、鈴鹿・四日市で「民主党フェスティバル」を成功させたいと張り切っています。

- ◆29日 13:30 鈴鹿市文化会館／外国人との共生
 - ◆3日 13:30 鈴鹿市文化会館／環境シンポジウム
 - ◆5日 14:00 鈴鹿市文化会館／医療・「シッコ」上映
 - ◆6日 13:30 四日市市文化会館／タウンミーティング
- どうか、一人でも多くの人々に声をかけてください。それぞれの会場で皆さんとお会いできることを楽しみにしています。